



◇ 8月7・8日、第1回高校教育模擬国連大会に3名の生徒が参加しました。

国立オリンピック記念青少年総合センターで、第1回全国高校教育模擬国連大会が開催されました。ユネスコ・アジア文化センターと全国中高教育模擬国連研究会の主催による催しで、全国から約500名の高校生が参加しました。



<事前準備>

テーマは「核軍縮」。各校ごとに割り当てられた国の大使役を務めます。模擬国連初参加の関高校の割り当て国は日本。まず、事前課題の議題概説書を読み込み、政府機関のHPや書籍を参考に、担当国の基本政策を立案するところから始まります。国是の核廃絶、日米安保と核の傘、核兵器禁止条約への不参加、トランプ新政権と中国・ロシアの動向、そして北朝鮮の核・ミサイル開発。まずはメンバー3名で、何回も討論を重ね、当日を迎えました。

<1日目> 午前は外務省の軍縮問題担当者(村本晶子氏)の講演会。そして午後はいよいよ、国連総会軍縮・安全保障委員会の開会。各国大使によるスピーチに続き、外交官の交渉力が問われるアンモデレートコーカス。非着席でのマルチ交渉が始まると議場は一気に白熱しました。



<第2日目> 1日目に提出された3つの決議案をめぐる、各国大使によるスピーチやマルチ交渉が繰り返され、結果、2つの修正案が総会に提出されました。紆余曲折、まさかの展開の末、修正案はふたつとも可決されました。

会議をリードしたのは、模擬国連常連校の高校生たちです。ファシリテーションやプレゼン、コミュニケーションスキルの高さには、正直、驚かされました。対する関高生、初回参加にも関わらず、スピーチや非着席交渉で、存在感を発揮していました。これから解決すべき課題も見つかり、実り多い2日間でした。志高い仲間たちと出会い、多くの刺激を受けたことが、何よりの成果であったと思います。



<参加した生徒の感想>

■日本大使に選ばれた時は、本当に驚きました。事前学習も忙しく、勉強との両立が難しい時もありました。しかし学習を進めるうちに国際情勢について深く理解することができ、次第に核軍縮について研究することが楽しくなりました。それは本番も同じで、国際情勢の流れを感じながら、臨機応変に対応するために各国大使と一緒に考えたことは、本当に自分自身のためにもなりましたし、最高の時間でした。

また参加者の中には名門私立校の生徒が多く、これからの勉強の刺激になりました。この取り組みを通して、受験勉強との両立に工夫が必要でしたが、それでもそれ以上に価値のあった時間だと思えます。ぜひ、来年は多くの人に参加してほしいと思えます。

■模擬国連について、まずは、これが僕にとって大変楽しいものであったということを書いてみたいと思えます。事前勉強を始めた当初は、何をどうすればいいのかもわからず五里霧中でした。きっとその頃の僕では想像できないほど、模擬国連を終えた今の僕は充実感を得ているでしょう。

それほど充実感を僕に与えてくれたのは、アクティブラーニングを通じた他の参加者からの刺激だといえると思えます。関高が SGH 活動の目標のひとつとして目指してきた課題解決型研究への取り組み、模擬国連は素晴らしいその実践の場だと思えます。模擬国連において、参加者はそれぞれ世界各国の大使に割り振られます。そして各々がその国の大使になりきって会議を進めていきます。今回のテーマは「核軍縮」。もちろん、その国の大使にふさわしい行動をするためには事前のリサーチが欠かせません。このリサーチに、明確な正解は存在しません。それぞれが必要なことを考え実行します。それが僕にはとても楽しく感じられました。今回のリサーチを通して、今までどこか遠い世界の出来事だったニュースも身近に感じられるようになったと思えます。

他の参加者との触れ合いも、とてもいい刺激になりました。日本全国から集まるトップクラスの高校生たちと関わりを持てたこと、同時に彼らを相手にして同じ舞台上で競いあえたことは僕に自信を与えてくれました。模擬国連という舞台上での経験値の差はやはり存在し、遅れをとった部分もありましたが、総合的に見れば決して劣っていたとは感じられず、関高校の生徒として胸を張ることができました。他の関高生にも全国、世界の舞台へ挑戦していただく力は充分にあるので、自信を持ってほしいと思えます。

■僕は、この経験を通して色々な事を学びました。ひとつ目は、世界の今の国際情勢や歴史背景を学べたことです。僕たちは、今回「核軍縮」というテーマで日本大使として模擬国連で話し合いました。一見、日本のことだけ知っていればいいと思われそうですが、国連という場では自国のことだけでなく、他国の国際情勢や歴史背景を知っておかなければなりません。それにより、この模擬国連で僕は様々なことを学び、今まで気にしていなかった新聞の記事も興味を持つて見るようになりました。

ふたつ目は、自分とは違う考え方を持つ人たちと一緒に話し合えたのがすごく刺激になったことです。今回の模擬国連参加者は、グローバルな人材を目指している人ばかりでした。模擬国連を何回も経験している人も多くいました。そのような人たちと話し合うことができ、自分の視野の狭さを感じることが出来ました。しかし、僕たちのやっている SGH 活動は他の高校に比べて劣っていないということも分かりました。今回、初参加にも関わらずここまでできたことは、今までいろいろな分野の人の講演を聞いたり、アクティブラーニングで様々な力をつけたりしたり、プレゼン能力を伸ばしていった SGH の成果だと思えました。これからも、しっかりと SGH 活動を続けていこうと思えます。

